

2024/8/23 開催 いけんひろば
～みんなのアイデアでヘイトスピーチをなくそう！～
いけんのまとめ オンライン回

【オンライン】1班（中学生2名・高校生世代2名） 2

【オンライン】2班（中学生2名・高校生世代1名） 5

（注）本資料は、いけんひろば参加者個人のご意見を逐語的に記載したものです。本資料の記載内容は、政府としての見解や評価ではありません。

なお、発言者個人の特定や、特定の個人や団体等への直接的な批判につながる恐れがある発言については、発言の趣旨を改変しない形で修正しています。

【オンライン】1班（中学生2名・高校生世代2名）

1. ヘイトスピーチが行われる背景

○ヘイトスピーチはなぜ行われるのか、また、なぜなくなるのか、思う理由を教えてください。

＜ヘイトスピーチを見た経験＞

- 誰でもコメントができるニュースのコメント欄で「○○人（特定の国や地域の人）が悪い」というコメントを見た。また、日本への留学生の講演会で「ふるさとの国では『日本人は悪い』と言われており、留学前は日本に対して良くない印象を持っていた」という話を耳にした。
- 誰もが情報の発信者にも受け手にもなる SNS において、ヘイトスピーチや誹謗中傷の問題は深刻だと思う。また、アメリカでは、一部の違法移民の存在によって、ヒスパニックであるだけでヘイトスピーチを受けることがあると歴史の授業や SDGs 学習で学んだ。
- 市議会議員選挙の候補者が「違法移民が多い。違法か合法か判別がつかないので、外国人は一律に追い出すべきだ」と街頭演説で主張している姿を目にしたことがある。SNS 上でも、何回かヘイトスピーチを見かけたことがある。

＜ヘイトスピーチについて見聞きした経験＞

- 埼玉県川口市の駅周辺でクルド人排斥デモが行われていることを報じる新聞記事を読んだ。ヘイトスピーチは、特定の国や地域の人が多く住む地域で行われる傾向にあるようだ。
- 匿名の SNS は、日常で人と話す時よりもヘイトスピーチがしやすい場だと思う。
- ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に関して、日本では片方の国に好意的な報道が多いと思う。ロシア人全員が「良い」あるいは「悪い」ということはないと思うが、ロシア人が経営する店の売上が大きく減少したという報道を目にしたことがある。
- イスラエル軍とイスラム組織ハマスの大規模な戦闘に関しても、イスラエルがやりすぎだという批判が SNS や報道でされているが、「日本は今後（片方との）関係を断つべき」という意見は過激だと感じる。
- COVID-19 が流行し始めたころ、特定の国が流行の原因だというデマに基づくデモ行進が行われた報道を見たことがある。

＜ヘイトスピーチが行われる背景＞

- 人種差別の問題は、歴史的要因が大きいと思う。アメリカの植民地では主人と奴隷という「人を人と思わない関係」から差別が始まっている。現在でも、同じ人種ばかりが利用するレストランがあると耳にしたことがある。
- 推測だが、ヘイトスピーチは特定の組織を批判するものが多い。ヘイトスピーチをする人は、自分が所属している組織を守るために、別の組織を攻撃してしまうのかなと思う。組織と組織の間には壁があり、攻撃しても自分の心に対するダメージは少ないと考えて攻撃してしまうと思う。また、SNS では、ひとつの投稿に多くの共感が集まると「正しい」という流れができてしまう。
- ヘイトスピーチには自分の組織が傷つけられたことに対する報復的な意味があると思う。たとえば、日本の水産物の輸入禁止措置をとった韓国に対して、水産業者ではない人も「根拠がないのになぜ日本にそんなことをするんだ」という私的な感情でヘイトスピーチという形で“叩い”ていたと思う。

- ひとつの国の中でも、ヘイトスピーチをする人とならない人に極端に分かれると思う。たとえば、イギリスが EU を離脱した理由のひとつは、移民を受け入れないようするためであった。EU のなかで GDP が高いイギリスには、お金を稼ぐことを目的に多くの移民が来ていた。移民の受け入れについて、賛成するイギリス人もいれば、移民が仕事を奪ったせいで失業したと考えて反対したイギリス人もいた。不都合がない人はヘイトスピーチをしないが、例えば失業してしまった人は自分が失業した不満を移民に向けてしまうと思う。また、ヘイトスピーチをする人は「ヘイトスピーチをしている」とは思っていないで、「意見」として相手にぶつけてしまっていると思う。
- ヘイトスピーチをしてしまうのは、「相手が傷つく」という想像力が欠如しているというよりは、相手が個性を持つ人間だと思わず、塊や概念として捉えてしまっているからということが多いと思う。目の前にいる人に対して暴言をぶつければ実感があるが、SNS では生身の人間が言葉を受け取ることが分かりづらいのでヘイトスピーチが多く行われているのだと思う。
- 戦争に関する書籍で、命令を出す司令と戦地で銃の引き金を引く兵士とを比較すると、戦地で銃の引き金を引く兵士の方がうつ病を発症する可能性が高いと読んだことがある。発症の原因は相手との物理的・心理的距離の差にあり、司令は戦地に行ったり、被害者のことを考えたりすることが少ないため、簡単に命令を出せると書いてあった。その考えに当てはめると、相手との物理的・心理的距離が遠いインターネットは、攻撃がしやすくなってしまっていると思った。
- ヘイトスピーチに触れた経験の有無は大きな違いだと思う。ヘイトスピーチを受けた人がヘイトスピーチをする可能性は低いと思う。もちろん、全員がヘイトスピーチを受けるべきという意味ではない。クリックするだけで世界中に情報が広がるインターネットは、生身の演説などより情報発信のハードルが低いため発信されやすく、ヘイトスピーチを受ける人が拡大している。
- 人から悪口を言われた経験はあっても、たとえば少数民族のような「自分と違う人」からヘイトスピーチを受けた経験はない。「自分と同じではないからヘイトスピーチをしてもよい、傷つけてもよい」という雰囲気があると思う。ヘイトスピーチ解消法で禁止されてはいるが、法的に罰せられないことがヘイトスピーチを助長していると思う。

2. 現在行っている取組について

○背景を踏まえ、法務省が実施しているヘイトスピーチの解消に向けた啓発活動（ポスター・啓発マンガ・啓発動画・SNS発信等）について、良いと思う点・もっとこうした方が良いと思う点を教えてください。

<ポスター・啓発マンガについて>

- 人の目に留まりやすいポスターや啓発マンガは、ヘイトスピーチの認知度を高める目的では良い活動だと思う。自分の経験上、ポスターや広告は「自分もこうなったらどうしよう」という恐怖心や不安感をあおると一目見て印象に残ると思う。そうした点に着目しても良いと思う。
- ポスターは、一目見て「はっ」となる直感的に伝わりやすいデザインだと思った。
- ヘイトスピーチは、インターネットの普及によって深刻化している。「ヘイトスピーチは許されないことである」とこどものころから学ぶことで、将来的にヘイトスピーチが減ると思うため、こどもが手に取りやすい漫画は良いと思う。また、ポスターの「ヘイトスピーチを許さない」というキャッチコピーについて、「ヘイトスピーチをしてはだ

め」ということはヘイトスピーチをしている人も分かっていると思うので、より具体的にヘイトスピーチをされたことによる体験を記載したほうが良いと思う。

<インターネット上での啓発活動について>

- 「ヘイトスピーチ」という言葉が前面に出すぎているように感じる。「生まれつき変えられないことに対して言及し、人を傷つけることはだめ」など、「どういう人に対してどういうことをするのがだめ」という具体的な表現の方が解消につながると思う。

<全国の法務局・地方公共団体との協力について>

- 費用対効果を考えてと難しいかもしれないが、地方での取組が不十分だと思う。
- 川崎駅などの大きい駅は改札付近で待合せをする人が多いので、デジタルサイネージでポスターを放映するのは良い取組だと思う。

3. 今後の取組について

○背景を踏まえ、ヘイトスピーチを解消するために、今後、国・地方公共団体は、それぞれどのような取組を行っていくことが必要だと思いますか。

- 国・地方公共団体が実施する取組が分からないが、異文化交流会は効果的だと思う。人が集まるきっかけやテーマはどんなものでも良く、日本でヘイトスピーチの対象になっている人と日本人の交流が出来たら良いと思う。相手を個性のある人だと認識できていない場合、会ったり趣味を知ったりすることによって、ヘイトスピーチが減ると思う。
- ヘイトスピーチ防止に向けた標語コンテストを開催して、ヘイトスピーチについて考える機会を設けると良いと思う。また、ヘイトスピーチ解消法には罰則を設けて、罰せられることをアピールできると良いと思う。やってはだめだと知っても、罰則がない限り、ヘイトスピーチをする人はいると思う。
- 対面よりもオンラインの方が、ヘイトスピーチをする人の割合が高い。実現は難しいかもしれないが、インターネットで投稿する前に「ヘイトスピーチをしていますか？」という確認画面が出ると、ヘイトスピーチをしにくくなると思う。
- 様々な人が集まる施設で、ヘイトスピーチについて気軽に学習や体験ができるイベントを定期的で開催すると良いと思う。たとえば、休日のデパートに買い物や遊びに来る多くの人が、ついでに立ち寄れる無料イベントのようなイメージ。
- ヘイトスピーチに関するコンプライアンス研修を一般企業と推進できると良い。ある企業の重役がヘイトスピーチを行った事例があり、一般企業においてヘイトスピーチ禁止の意識が十分広まっていないと思った。
- QuizKnock（クイズ系 YouTube チャンネル）と法務省人権擁護局がコラボレーションをしていた。有名人とのコラボレーションはヘイトスピーチの認知度を高める近道だと思う。

以上

【オンライン】2班（中学生2名・高校生世代1名）

1. ヘイトスピーチが行われる背景

○ヘイトスピーチはなぜ行われるのか、また、なぜなくなるのか、思う理由を教えてください。

<ヘイトスピーチについて知っているか>

- 知らなかった。知らないからこそ知っておいたほうが良いと思ったのでいけんひろばに参加した。
- 知らなかった。学校でも習っていない。

<ヘイトスピーチを見た経験はあるか>

- ヘイトスピーチを実際に見た経験がきっかけで、今回のいけんひろばに参加した。ヘイトスピーチ解消法が制定される前に、都内で朝鮮に対するヘイトスピーチの行進と、ロシアに対するヘイトスピーチを目撃した。駅前の道路が通行止めになり、横断幕を掲げた年配の人たちがデモのように「朝鮮人は帰れ」と叫んでいたのを覚えている。ヘイトスピーチは年配の人が行っていることが多い印象がある。また、北方領土に関連して街宣車がロシア人に対するヘイトスピーチを行っていて、太平洋戦争までさかのぼって人種批判をしていた。10年前の出来事だが、非常に衝撃的で今でも覚えている。

<ヘイトスピーチはなぜ行われるのか>

- 特定の国に対する印象を、大切な人がその国から何かされた経験や、戦争が多いといったイメージだけで決めてしまっているのではないかと思う。
- 在日外国人が日本人と同じように生活保護を受けている。日本人ではないのに同じ待遇を受けることは良くないという理由でデモが起きていると聞いた。
- 北方領土に関して言えば、街宣車の人たちはそれが自分たちにとっての正義だと信じて行動していると思う。ヘイトスピーチを行わない日本人が外国人を批判しないでくれと言っても、彼らは「自分たちは日本人の利益を守ろうとしているのに」と思っている。外国人の生活保護受給や投票権に対してヘイトスピーチをする団体も、「日本人を守ろうとしているのになぜやってはいけないんだ」と、自分たちの正義を守っているだけなのではないかと思う。
- ヘイトスピーチを行う人は「自分が考える正しさをなぜ理解してもらえないのか」というように、自分の行動や発言が正しいと信じていると思う。客観的に自分たちのことを見れば、ヘイトスピーチをしなくなると思う。
- ヘイトスピーチをされている人たちが日本国籍を取得したら批判されることがなくなると思う。ヘイトスピーチがなくなる理由としては、ヘイトスピーチがいけないことだということが広まっていないことが原因だと思う。学校でもヘイトスピーチに関するパンフレットなどは見たことがない。

<その他>

- ヘイトスピーチ解消法についてもっと知りたい。法律が制定されたのに今でもデモが行われている理由が知りたい。
- ハーフの人たちはどう扱われるのだろうか疑問に思った。例えば、日本人とロシア人のハーフであれば、彼らはどのような扱いを受けるのかが気になる。

2. 現在行っている取組について

○背景を踏まえ、法務省が実施しているヘイトスピーチの解消に向けた啓発活動（ポスター・啓発マンガ・啓発動画・SNS発信など）について、良いと思う点・もっとこうした方が良いと思う点を教えてください。

- サンガスタジアムは人が多く集まっているので啓発活動が広まりやすく良いと思う。
- ヘイトスピーチを行っている人に自分のことを客観視してもらうためには、「許さない」という言い方より、「許されない」という言いの方が良いと思う。「許されない」は第三者からの意見のイメージ。日本人は特に同調圧力に弱いので、「許されない」という言いの方がヘイトスピーチを行っている人に自分の行動を客観視させることもできて、ポスターを見た人の心に響くのではないかと思う。
- ヘイトスピーチを行っている人も、「外国の人は怖いから排除すべき」という正義もあるし、怖いからこそ攻撃してしまうということもあると思う。自分はヘイトスピーチも啓発活動も怖い。啓発活動では「許さない」のように、あえて語気を強めていると思うが、第三者である自分から見たら「許されていない」という言い方は怖い。そのため、ヘイトスピーチも啓発活動も「自分には関係ない、関わりたくない」と感じてしまうと思う。現状の啓発活動はヘイトスピーチに悪いイメージを持つことの働きかけにはなるが、自分が「ヘイトスピーチを止めたい」や「ヘイトスピーチ防止に関して力を貸したい」という気持ちにはならない。
- 新大久保で「韓国の文化体験のパレード」のポスターを見つけた。このような外国文化の体験をすることで、ヘイトスピーチもなくなるのではないかと思う。

<資料は見てほしい人に見てもらえるか>

- 啓発マンガが法務省 HP にしか載っていないことが問題だと思う。ふだん法務省の HP はあまり見に行かないので、X や他の SNS などに載せる方が若者も見えてくれると思う。
- 家族と話して思うことは、若者は外国人に対して偏見を持っておらず、ヘイトスピーチを知らない人も多い。若者に宣伝することは大事だと思うが、ヘイトスピーチなどの問題を抱えているのはどちらかという年齢の人なので、40 代以上の人に見てもらおうとヘイトスピーチをなくす力になると思う。
- ヘイトスピーチを行っている人や団体には啓発活動は伝わらないと思う。こどもがヘイトスピーチをダメと言うことが大事。そうすれば、ヘイトスピーチを行っている人はヘイトスピーチをやめるのではないかと思った。

<啓発マンガを読んでどう思ったか>

- いけんひろば参加前はヘイトスピーチについて知らなかったが、啓発マンガを読んだことで理解ができた。
- 歴史的背景について詳しく書いてあったら良い。事前にマンガとインターネットでヘイトスピーチについて調べたが、歴史的背景の説明がないと、なぜヘイトスピーチが行われるようになったかが分からないと思った。
- ヘイトスピーチを行っている人がマンガを読んだとしても、ヘイトスピーチをやめようと思わないと思う。こどもにも分かりやすいように書かれているので、ヘイトスピーチが良くないことは一般の人には理解されると思う。
- わかりやすかった。ヘイトスピーチが行われている歴史的背景があるとより分かりやすくなったと思った。
- ヘイトスピーチを行っている人に対する注意喚起というより、ヘイトスピーチを理解していない人に向けて「ヘイトスピーチは良くない」という意識づけに特化する場合は良い資料だと思う。ヘイトスピーチを行っている人が啓発マンガを読んでヘイトスピーチをやめようとは思わない気がする。

<ポスターの設置場所のアイデアはあるか>

- 図書館は色々な人が利用するから、ポスターを設置すると良いと思う。ポスターにはヘイトスピーチを許さない理由が書かれていないので、もう少し理由が詳しく書かれていると良い。
- 利用者の年齢層が幅広いから図書館にポスターを設置するのは良い案だと思う。多くの高齢者が新聞を読むために図書館に来ている。勉強をしに来ている受験生などもポスターを見erと思う。
- 図書館にヘイトスピーチに関するポスターが貼ってあったら少し怖いと思う。図書館の落ち着いた環境を求めているのに、平和な生活が少し脅かされているような気持ちになる。

<インターネット上での啓発活動についてどう思うか>

- 多くの人に広めるには最適な方法だと思う。ただ、こども世代に広めるには、サッカースタジアムなどを活用すると良いかもしれない。学校でヘイトスピーチに関するチラシを配布することも良いと思う。
- Xは個人の好みに合わせて表示される投稿が変わるので、普段からヘイトスピーチに関して調べている人以外には、見られづらいのかもしれない。
- 色々な広告の中で、官公庁の広告があると、単なる広告じゃなく大事なお知らせだと思って目に留まる。東京都や内閣府などの広告はよく目にしていた。もっと広告に出会える機会を増やすと良いと思う。

<広告のビジュアルに関してどう思うか>

- 黄と黒は注意喚起の色として使われることが多いから、注意を引きやすいデザインになっていると思う。
- 駅でこのポスター（以下画像）を見たことがあり、とても記憶に残っている。広告を自分ごととして捉えるかについては必ずしもそうでないと思っている。実際の外国のこどもたちが泣いている画像にするとより自分ごととして捉えられると思う。自分が「ヘイトスピーチ、許さない」と言われている側の気持ちになるような文言もあると良いと思う。



- アメリカやオーストラリアには様々な人種の人がいるが、日本は島国だから国内には日本人ばかりがいる。自分がアメリカから日本に帰国したときに、日本人はみんな同じベージュの肌をしていると思った。日本に外国人がいることは珍しいことだが、日本の中でもグローバル感を出すと思う。一目で場所が日本と分かる画像を背景にして、その中に日本人や外国人が交じり合っているようなポスターを作ると良い。

<ポジティブな表現にするにはどうしたら良いか>

- ヘイトスピーチという言葉を使わずに、「外国の人をもっと受け入れていこう」というプラスの言葉を使うと良いと思う。「許されない」という否定的な言葉を使うと、普通に暮らしている人たちにとってヘイトスピーチが怖い存在になってしまうと思う。ありきたりだが、「仲良くしよう」などのポジティブな表現を使うことも良いと思う。語尾は「～しよう」という表現が良いと思う。
- マイナスよりプラスの言葉を用いる方が広告を見る人も気分が良いと思う。マイナスよりプラスの思考の方が見ている人の心に響くと思う。
- 「お互いの文化や考えを尊重しよう」などの言葉を使うと良いと思う。
- 「ヘイトスピーチを行っている団体の意見も一つに含まれるので、弾圧するのはお互いに良くない」と表現するのが良いと思う。ヘイトスピーチを行っている人を攻撃するというよりは、「あなたが攻撃するのは良くないよ」という風にするのが良い。今ヘイトスピーチを行っている人も何かしらの正義や意見があると思う。一部の国会議員もヘイトスピーチに近いことを行っていると聞いた。国会議員は表現の自由を主張の軸として持っている。啓発活動をすぎで、ヘイトスピーチを行っている人たちの表現の自由を奪うことは本末転倒になってしまうと思う。
- 「良いね」「嬉しい」「楽しい」などのように、聞いてすぐに理解できるポジティブな言葉を使うと良いと思う。
- 「小さな世界」の歌詞を使ったら良いと思う。
- 世界は「狭い」という歌詞は、確かに日本は狭いからびつたりな表現だと思った。

3. 今後の取組について

〇背景を踏まえ、ヘイトスピーチを解消するために、今後、国・地方公共団体は、それぞれどのような取組を行っていくことが必要だと思いますか。

- ヘイトスピーチに巻き込まれたくないと思っている人が多いと思う。ヘイトスピーチの被害者にも加害者にもなっていない市民に啓発活動への参加を呼び掛けるのではなくて、被害にあっている人たちと交流するような形で市民を巻き込むことが良いと思う。ヘイトスピーチを行っている団体がいる限りはすぐにヘイトスピーチはなくなるので、「被害者の人たちがなぜヘイトを受けないといけないんだろう」と市民に考えさせるような動きがあると良いと思う。
- 京都国際高校がかつて朝鮮人学校だったと報道を見た。校歌が朝鮮語だったが、日本語訳されていた歌詞がテレビには出ていた。少し前までは朝鮮人学校は甲子園の出場資格もなかった。監督は「学校が朝鮮学校ということに対して様々な意見があることは分かっている」と、優勝が決まったあとに発言していた。野球の大会で優勝したのだから野球の話すれば良いと自分は思ったが、監督がわざわざ話すということは、このあとヘイトスピーチをしている団体が批判するきっかけにはなるのではないかと思ったからだと思った。優勝校が朝鮮人学校ということを受けて、ヘイトスピーチの動きが出てくるかもしれない。
- 校歌に「日本海は東海」という歌詞があった。それを見て不思議だと思った。日本のこどもに朝鮮との歴史などの時代背景を学校で伝えると良いと思った。
- 法務省がヘイトスピーチを行っている団体にもっと話を聞くと良いと思う。「あなたの意見は一つの意見として届いているから、市民の平和を脅かして伝える必要はない」ということを分かってもらうことが良い。関東

大震災での朝鮮人虐殺の慰霊式典の横で朝鮮人虐殺はなかったというヘイトスピーチを行っている動画を目にした。ヘイトスピーチを行っている団体は、このような倫理的な問題を冒してでも訴えなくちゃいけないという使命感があると思うので、法務省のような権威のある団体がヘイトスピーチを行っている団体の話を聞くことで、市民に過激な方法で伝えることはなくなると思っている。

- ヘイトスピーチが始まった時代背景をこどもに教えることで、差別的な考えを持つこどもがいなくなるのではないかと思う。
- こどもにヘイトスピーチに関する教育をすれば「なにかよくわからないけど怖い」という気持ちは取り除けるのではないかと思う。
- ヘイトスピーチは国際的な問題になっていると事前説明で聞いたので、国内のみでなく、海外でもヘイトスピーチに関する授業を取り入れた方が良く思う。
- 有名人や芸能人に啓発活動に協力してもらおうと良いと思う。有名人でハーフタレントの人を起用すると、視聴者が「こんなに人気がある人なのにヘイトスピーチの被害者になってしまうことがあるのか」と自分ごとに捉えられると思う。
- コロナ禍のときに当時のアメリカ大統領が「チャイナウイルス」という発言をして、アメリカ国内で中国人が襲われたことがあった。国のトップの発言力は大きい。このことをポジティブに利用すると、例えば、日本の首相などの影響力の大きい人に「ヘイトスピーチはダメだ」と発言してもらえると良いと思う。
- 有名人の中でも日本人以外の血が混じっている人のように、デモの標的になりやすい人がヘイトスピーチについて発信すると、純日本人が発信するより影響力があるのではないかと思う。

<有名人を起用するとしたら具体的に誰が良さそうか>

- サワヤン（ウクライナ出身の YouTuber）のような人を起用すると良いと思う。ウクライナで戦争があったときに、自分も戦うと発言して注目を集めていた。ハーフモデルを起用することも良いと思う。モデルはキラキラした世界にいる印象があるので、そのような人たちが、みんなが見ないふりをしている現実に対して啓発しているとギャップがあり、影響力が大きいのではないかと思う。
- 法務大臣に啓発活動をしてもらおうと良いと思う。
- デヴィ夫人に啓発活動をしてもらいたい。理由は高齢の方にも知られていて、テレビにも多く出演しているから。知っている人がたくさんいるので影響力があり、発言一つ一つが重要視される方なのではないかと思った。

以上